

2023 年度事業報告

2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで

1. 定時会員総会に関する事項

2023 年 6 月 14 日、日本アクチュアリー会 大会議室にて会員総会を開催し、

- ・ 2022 年度 事業報告の件

を報告し、

- ・ 第 1 号議案 2022 年度 貸借対照表及び正味財産増減計算書並びに財産目録の承認の件
- ・ 第 2 号議案 理事及び監事の選任の件

を諮り、原案どおり承認された。

2. 会員の異動状況

本年度の会員の異動は、法人会員については入会 1 法人、退会 1 法人、個人会員については入会 227 名、退会 190 名があり、2024 年 3 月末の会員数は、下表のとおりとなった。

正 会 員	2,121 名
準 会 員	1,462
研 究 会 員	2,018
小 計	5,601
法 人 会 員	107 法人
合 計	5,708 名・法人

3. 事業報告

[A. 試験関係]

(A1) 資格試験の実施

2023 年 12 月 11 日～14 日の 4 日間、CBT (Computer Based Testing: コンピューターを利用した試験) 方式にて実施し、2024 年 2 月 19 日に結果発表を行った。

第 1 次試験の総受験科目数は 2,710 科目、うち合格科目数は 753 科目であり、その結果、新たな基礎科目全科目合格者数は 130 名であった。

第 1 次試験 (基礎科目)	数学	生保数理	損保数理	年金数理	会計・経済・ 投資理論
受験者数 (人)	827	536	494	359	494
合格者数 (人)	166	191	220	55	121
合格率	20.1%	35.6%	44.5%	15.3%	24.5%

第 2 次試験の総受験科目数は 1,061 科目、うち合格科目数は 177 科目であり、その結果、(基礎科目も含めた) 新たな全科目合格者数は 85 名であった。

第 2 次試験 (専門科目)	生保 1	生保 2	損保 1	損保 2	年金 1	年金 2
受験者数 (人)	352	331	134	116	63	65
合格者数 (人)	65	44	14	26	13	15
合格率	18.5%	13.3%	10.4%	22.4%	20.6%	23.1%

(A2) CERA 試験の実施

日本の CERA 試験は、英国アクチュアリー会 (Institute and Faculty of Actuaries; 以下、IFoA という) の SP9 (Enterprise Risk Management Specialist Principles) をベースとしているが、IFoA では 2023 年 9 月期の SP9 試験がオンライン試験で実施されることを踏まえ、当会の CERA 試験についても、2023 年 9 月 21 日に IFoA のオンライン試験プラットフォームを利用した形で実施した。2024 年 1 月 15 日に結果発表が行われ、受験者数は 36 名、うち合格者は 17 名 (合格率 47.2%) であった。新たに CERA 資格を 17 名に付与し、その結果、2024 年 3 月末の CERA 資格者数は 136 名となった。

(A3) 教科書の改訂

2024 年 2 月、「保険 1 (生命保険) 第 1 章営業保険料」については、記載内容の今日的な見直しを行い、「保険 2 (生命保険) 第 6 章ソルベンシー」については、正誤表の反映に加え経済価値ベース資本規制の内容を追加した。また、受験生の負担軽減と学習時の利便性向上を企図し、本会が著作権を持つ試験関連図書を電子媒体 (PDF ファイル) で一般向けホームページに掲載し、無償で提供した。

[B. 教育・研修・研究発表関係]

(B1) アクチュアリー講座等の実施

アクチュアリー基礎・特論講座を、2023 年 5 月 15 日から 2023 年 11 月 6 日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目	受講者数
基礎講座 (6 グループ)	・ 確率論、統計論、確率論演習、統計論演習 (56 名) ・ モデリング (55 名) ・ 生保数理、生命表 (68 名) ・ 損保数理 (86 名) ・ 年金数理 (83 名) ・ 会計学、経済学、投資理論 (70 名)	左記の通り
特論講座 (7 科目)	・ 危険選択論 ・ 社会保険論 ・ 人口論 ・ 保険監督法 ・ 年金実務法規 ・ ファイナンス数理 ・ リスクマネジメント論	25 名

アクチュアリー追加演習講座を、2023 年 9 月 20 日から 2023 年 11 月 28 日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目	受講者数
追加演習講座 (4 科目)	・ 生保数理演習 (19 名) ・ 損保数理演習 (26 名) ・ 年金数理演習 (21 名) ・ モデリング演習 (14 名)	左記の通り

ERM 関連の専門知識・技能を学ぶことを目的とした、アクチュアリー専門講座 (ERM) を、2023 年 7 月 24 日から 2023 年 9 月 7 日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目	受講者数
専門講座 (ERM) (3 科目)	・ ファイナンス数理 (※) ・ リスクマネジメント論 (※) ・ ERM ※特論講座と共通科目	21 名

アクチュアリー業務領域に有益なデータサイエンス関連の専門知識・技能を、PCを用いた実習により習得することを目的とした、アクチュアリー専門講座（データサイエンス）を2023年11月28日から2024年3月16日の期間で実施した。受講状況は次の通り。

	内容	受講者数		
専門講座 (データサイエンス)	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 【前編】 ・Rの導入と簡単な回帰モデル ・線形回帰モデル ・主成分分析・クラスタリング ・決定木 ・一般化線形モデル1 ・一般化線形モデル2 ・時系列解析 </td> <td style="vertical-align: top;"> 【後編】 ・予測モデリングの基本手順 ・探索的データ解析（EDA） ・予測モデリング用のモデル例 ・モデルの選択・評価の方法 ・回帰問題での実践 ・分類問題での実践 </td> </tr> </table>	【前編】 ・Rの導入と簡単な回帰モデル ・線形回帰モデル ・主成分分析・クラスタリング ・決定木 ・一般化線形モデル1 ・一般化線形モデル2 ・時系列解析	【後編】 ・予測モデリングの基本手順 ・探索的データ解析（EDA） ・予測モデリング用のモデル例 ・モデルの選択・評価の方法 ・回帰問題での実践 ・分類問題での実践	21名
【前編】 ・Rの導入と簡単な回帰モデル ・線形回帰モデル ・主成分分析・クラスタリング ・決定木 ・一般化線形モデル1 ・一般化線形モデル2 ・時系列解析	【後編】 ・予測モデリングの基本手順 ・探索的データ解析（EDA） ・予測モデリング用のモデル例 ・モデルの選択・評価の方法 ・回帰問題での実践 ・分類問題での実践			

(※) 前編の各講義の内容は前半・後半に分けられ、前半の授業は事前に録画された講義を視聴するオンデマンド講義とした。

<受講生の利便性を考慮した対応>

すべての講座を、オンライン形式で開催した。また、講義に参加できなかった受講者向けに講義録画動画の配信（配信期間は2週間）を実施した。

(B2) 日本アクチュアリー会年次大会の開催

2023年11月1日、2日の2日間、1日目は経団連会館にて対面形式で、2日目は対面（ステーションコンファレンス東京）とオンラインを併用したハイブリッド形式で年次大会を開催した。なお、当日の様子は録画し、大会終了後eラーニングシステムで視聴可能とした。当日のプログラムは以下の通り。

① 大会1日目

- ・ 開会式（理事長挨拶、祝辞）
- ・ プレゼンテーション（ICA2026組織委員会の取組み ～東京大会開催に向けて～
庄子 浩 君（ICA2026組織委員長））
- ・ 特別講演

生物はなぜ老い、そして死ぬのか	小林 武彦氏（東京大学定量生命科学研究所教授）
社会保障・日本経済を巡る課題—財政的な側面を中心に—	小黑 一正氏（法政大学教授）
認知症の今後について	朝田 隆氏（メモリークリニック御茶の水 院長）

② 大会2日目

全体で、論文発表：12編、プレゼンテーション：11セッション、パネルディスカッション：4セッション、英語によるディスカッション・フォーラム：13セッションが行われた。

(B3) IT研究大会の開催

2024年2月9日、大樹生命ホール（大手町野村ビル）において、第63回IT研究大会を対面形式で開催した。なお、当日の様子は録画し、大会終了後eラーニングシステムで視聴可能とした。

本大会の中で、次の特別講演が行われた。

web3 がもたらす保険/共済の可能性

植田 良平 氏 (アビームコンサルティング)

技術グループによる新技術紹介(ブース展示)や IT 研究会第 1 グループから第 5 グループによる活動報告が行われた。

(B4) 例会の開催

2023 年度は次の例会を開催した。詳細は次のとおり。

第 1 回 (2023. 5. 22) [データサイエンス]	ChatGPT や GitHub Copilot などのツールでアクチュアリー業務にどのような効率化がもたらされるか	Jeffrey Heaton 氏 (RGA リインシュアランスカンパニー グローバル・データ&アナリティクス部門 ヴァイス・プレジデント・データ・サイエンス) Kyle Nobbe 氏 (RGA リインシュアランスカンパニー グローバル・データ&アナリティクス部門 ヴァイス・プレジデント兼アドバンスト・アナリティクス・アクチュアリー)
	(第 1 回再放送) 6 月 5 日	
第 2 回 (2023. 7. 10) [その他]	「日本の将来推計人口 (令和 5 年推計)」の概要について	岩澤 美帆 氏 (国立社会保障・人口問題研究所 人口動向研究部長)
	(第 2 回オンデマンド配信) 7 月 24 日~8 月 6 日	
第 3 回 (2023. 8. 18) [生命保険]	気候変動は私たちの健康に悪影響を及ぼす	Sarah Hoge Kamp 氏 (Gen Re シニア・プライシング・アクチュアリー)
	(第 3 回再放送) 9 月 1 日	
第 4 回 (2023. 10. 16) [リスク管理]	Managing Market Risk under New Solvency Regime - Key considerations and lessons learned from the first year of adopting IFRS17 and K-ICS in Korean insurance industry	TK Lee 氏 (Managing Director and head of Aon PathWise Solutions Group APAC, Fellow of the Society of Actuaries)
	(第 4 回再放送) 11 月 7 日	
第 5 回 (2023. 11. 14) [データサイエンス]	AI に関する歴史・現在・未来 ~ 生成 AI の可能性	本橋 洋介 氏 (日本電気株式会社 デジタルプラットフォームビジネスユニット NEC Generative AI Hub テクノロジーリード)
	(第 5 回オンデマンド配信) 11 月 28 日~12 月 11 日	
第 6 回	人的資本経営 ~ 本来求められていることと現状~	白井 正人 氏 (マーサー・ジャパン株式会社)

(2023. 11. 30) [その他]		社 取締役 執行役員 組織人事 変革部門 日本代表)
	(第 6 回再放送) 12 月 15 日	
第 7 回 (2023. 12. 7) [プロフェッショナリズム]	※プロフェッショナルリズム研修 (継続教育) との共同開催 (B9 参照)	
	(第 7 回再放送) 12 月 21 日	
第 8 回 (2024. 1. 16) [その他]	日米金利・金融市場見通し：24 年大統領選挙、FRB 利下げ開始・日銀マイナス金利解除後の政策展望	井上 健太 氏 (三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券 シニア債券ストラテジスト)
	(第 8 回再放送) 1 月 30 日	
第 9 回 (2024. 2. 8) [生命保険]	行動科学に基づくアンダーライティングにおける質問の再設計	Aisling Bradfield 氏 (Head of Behaviour & Science SCOR RE) Niamh Uí Cheallacháin 氏 (Behavioural Science Associate SCOR RE)
	(第 9 回オンデマンド配信) 2 月 22 日～3 月 6 日	
第 10 回 (2024. 2. 27) [生命保険]	コロナ禍の死亡率の変化	神谷 信一 氏 (Associate Professor, Nanyang Technological University Singapore)
	(第 10 回オンデマンド配信) 3 月 8 日～3 月 21 日	
第 11 回 (2024. 3. 11) [生命保険]	Early stages of Alzheimer's dementia - 最新情報	Dr. Gabriele Teichmann 氏 (ハノーバー・リー グループメディカルオフィサー、ライフ・リスク・アセスメント部門ゼネラルマネージャー)
	(第 11 回オンデマンド配信) 3 月 15 日～3 月 28 日	

<会員の利便性を考慮した対応>

第 5 回を除きすべての例会を、オンライン形式で開催した (第 5 回は対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催)。また、当日参加が難しい会員向けに例会当日の録画内容の再放送またはオンデマンド配信を実施した。

(B5) 関西委員会分科会の開催

対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で 2024 年 3 月 11 日に開催した。

(2024. 3. 11) [生保・年金・リスク管理]	今年度の分科会活動報告	保険計理分科会 年金分科会 ERM 分科会
--------------------------------	-------------	-----------------------------

(B6) ムーンライトセミナーの開催

対面またはオンライン形式とし、2023 年 12 月から 2024 年 2 月にかけて次の 4 つのテーマでそれぞれ複数回開催した。

海外保険会社の IFRS 第 17 号の開示資料を分析してみよう	土井 和行 君 朝田 朋憲 君 武田 真興 君 (ウイリス・タワーズワトソン)
世界の診療報酬制度	福田 佑介 君 (RGA)
大規模言語モデル (Large Language Models : LLM) を用いた業務用 chat AI の製作	大塚 裕次朗 君 (ミリマン)
統計的因果推論の実務活用	宮川 大介 氏 (早稲田大学 商学部)

(B7) 関西セミナーの開催

対面とオンラインを併用したハイブリッド形式とし、2024年2月19日に次のテーマで開催した。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口流動による SIR モデルの複数地域への拡張と予測精度の改善 ・ 新型コロナウイルスによる死亡水準変動への影響の考察 ・ 貸借額の従属性に着目した資金取引のシステミックな信用リスク分析 ・ 自動運転の普及による自賠責保険の変化に関する考察 ・ 日経平均株式市場における複素ヒルベルト主成分分析の有効性検証 	京都大学大学院理学研究科 保険ゼミ生
--	-----------------------

(B8) e-ラーニングの充実

e-ラーニングに次のコンテンツを公開した。

- ・ 2021 年度年次大会「リスクマネジャーの資質と ERM の過去・現在・未来—CERA 試験日本導入 10 年目をきっかけに—」
- ・ 2021 年度年次大会「データ分析コンペティションとアクチュアリー」
2021 年度年次大会「アクチュアリー行動規範の改正およびアクチュアリー行動基準の制定について」
- ・ 2021 年度年次大会「働き方の多様化と企業年金の活用」
- ・ 2021 年度年次大会「AFIR 関連研究会紹介 及び 最近のリスクに関する話題」
- ・ 2021 年度 Open Discussion Forum①Covid19
- ・ 2021 年度 Open Discussion Forum②FR (Financial Reporting)
- ・ 2021 年度 Open Discussion Forum③Longevity
- ・ ESG 投資について
- ・ 金融機関の気候変動リスク
- ・ 2022 年度年次大会「損保アクチュアリーのための R による計算保険数理」
- ・ 2022 年度年次大会「IFRS17 号の収益認識について」
- ・ 2022 年度年次大会「気候変動リスクマネジメント アクチュアリーもやもや解消レシピ」
- ・ プロフェッショナルリズム研修 (継続教育) 2022
- ・ デジタルツインで実現する機器の故障リスクマネジメント

- ・ 2021 年度第 10 回例会「世界のインシュアテックの動向 ― アクチュアリー視点」
- ・ 2022 年度第 1 回例会「気候変動の現状と生命保険に与える影響」
- ・ 2022 年度第 2 回例会「就業不能リスク管理 - データプールとドイツの就業不能新標準テーブル」
- ・ 2022 年度第 3 回例会「アクチュアリーチームのためのアジリティ入門」
- ・ IAA リスクブック第 7 章（グループ内再保険取引）
- ・ 2022 年度第 8 回例会「機械学習の保険実務への活用 ～過去・現在・未来～」
- ・ 2022 年度第 9 回例会「Long COVID - a Challenge for Life & Health - Long COVID 生命保険の課題に？」
- ・ 2023 年度第 1 回例会「ChatGPT や GitHub Copilot などのツールでアクチュアリー業務にどのような効率化がもたらされるか？」
- ・ 先端技術：量子コンピューティング
- ・ 高齢者介護予防に関する日立の取り組みと保険開発への応用
- ・ 保険業界における量子コンピュータ活用の展望～来るべきパラダイムシフトへ備えて～
- ・ 2022 年度 Open Discussion Forum①
- ・ 2022 年度 Open Discussion Forum②
- ・ 2022 年度 Open Discussion Forum③
- ・ 2023 年度第 3 回例会「気候変動は私たちの健康に悪影響を及ぼす」

(B9) プロフェッショナルリズム研修の実施

- ① プロフェッショナルリズム研修（継続教育）を、2023 年 12 月 7 日に次の内容で実施した。
（再放送：2023 年 12 月 21 日）

- ・（第一部）Profession と倫理教育－エンジニアリングを例に－ 札野 順 氏（早稲田大学 大学総合研究センター教授）
- ・（第二部）IAA におけるプロフェッショナルリズムを巡る動向 ―「専門職としての判断」の文書化と EU における資格認証について－ 田中 浩一 君（明治安田生命）

- ② プロフェッショナルリズム研修（初期教育）を、2024 年 3 月 4 日にオンライン形式で実施した。この研修は正会員資格の認定要件である。

- ・ アクチュアリーとプロフェッショナルリズム概論 片寄 郁夫 君（りそな銀行）
- ・ 日本アクチュアリー会行動規範 宮本 淳 君（第一生命）
- ・ 生保のプロフェッショナルリズム 渡部 仁 君（日本生命）
- ・ 損保のプロフェッショナルリズム 金子 洋巳 君（損保ジャパン）
- ・ 年金のプロフェッショナルリズム 日下部 健児 君（みずほリサーチ&テクノロジーズ）
- ・ ケーススタディ※ 金澤 巖 君（T&D ホールディングス）

※アクチュアリーに求められる「コミュニケーション」に関する研修を含む。

(B10) 特定分野研修（初期教育）の実施

特定分野研修（初期教育）を 2023 年 9 月 5、22 日および 2024 年 3 月 8、12 日に実施した。なお、この研修は 2024 年度より正会員資格の認定要件となる。

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| ・金融システム | 高橋 智彦 氏（拓殖大学教授） |
| ・アクチュアリアル・リスクマネジメント | 藤澤 陽介 君（住友生命） |
| ・データとシステム | 岩沢 宏和 君（早稲田大学大学院客員教授） |

(B11) CERAに関する研修等の実施

2024年2月10日、CERA試験の合格者を対象に、ERMに関する日本特有の状況やERMのケーススタディについて講義やグループ学習を実施した。この研修はCERA資格の認定要件であり、受講修了者は13名であった。

(B12) 研究集会の実施

テーマに沿った先端的な研究を題材に会員と研究者・大学院生などが討論し論文の深掘を行うことを目的とし、2023年度研究集会を2024年3月9日に行った。プログラムは、ICA2026東京大会に向けて、発表、論文執筆に興味を持っている会員が新たな研究テーマを発見することを期待して構成された。

(B13) アクチュアリー海外研修の実施

生保・年金、損保をテーマとする2班に分かれて、第9回アクチュアリー海外研修を実施した。生保・年金班は米国アクチュアリー会（SOA）の年次大会でのプレゼンテーションを含め、2023年10月21日から11月2日の期間で、損保班は米国損保アクチュアリー会（CAS）でのプレゼンテーションを含め、2023年11月5日から11月17日の期間でそれぞれ研修が行われた。参加者は、生保・年金班38名、損保班5名であった。

〔C. 調査・研究活動〕

(C1) 標準死亡率諮問委員会の開催

第29回標準死亡率諮問委員会が、2023年10月25日に開催され、「生保標準生命表2018（死亡保険用）」、「第三分野標準生命表2018」及び「生保標準生命表2007（年金開始後用）」について、2024年度に継続適用することが了承された。

(C2) 経済価値ベースのソルベンシー規制・会計基準等への対応

- ① 2023年6月に金融庁から公表された、「経済価値ベースのソルベンシー規制等に関する基準の最終化に向けた検討状況について」を受け、金融庁と当会が連携して検討すると位置づけられたガイダンス、保険負債の検証責任者の適切性に関するフレームワークについて検討し、2024年3月に保険負債等の評価・検証に関するガイダンス（案）を一般向けホームページにて公開した。
- ② 当局提示の「経済価値ベースの評価・監督手法の検討に関するフィールドテスト」における「保険負債の検証レポート」の記載項目に「プロポーショナリティ原則に基づく簡便法の適用」および「課題及び改善策等」が追加されたことを受け、『「保険負債の検証レポート」記載要領・記載要領の背景』を改訂し、2024年3月に一般向けホームページにて公表した。

(C3) 保険商品数理に関する検討

生保商品特別検討WGにおいて、2024年3月、「金利上昇局面における生命保険商品の数理事項（予定利率等）」をテーマとしたオンライン形式での意見交換会を実施した。

(C4) 国際会計基準・保険監督の国際基準への対応

国際会計基準及び保険監督の国際基準について、本会は、IAA（国際アクチュアリー会）の委員会活動への積極的な参画を通じて対応した。IAAは、国際的なアクチュアリー専門職団体として、IASB（国際会計基準審議会）及びIAIS（保険監督者国際機構）において行われている検討に関して、パートナーシップ契約等を締結し、アクチュアリアルな事項に関し助言等を行っている。

(C5) 試験・教育制度の見直しに関する対応

- ① 2021年より2017IAA教育シラバスが発効されたことを契機に、将来の本会の試験・教育制度について、試験・教育企画委員会及び傘下のPT等にて対応を検討し、2024年3月に本会の教育シラバスを制定した（シラバスの施行は2025年度から）。
- ② 2017IAA教育シラバスに対する短期的対応として、「金融システム」「データとシステム」「アクチュアリアル・リスクマネジメント」の3つの分野の研修（「特定分野研修（初期教育）」と総称）を開催している。（(B10)参照）なお、正会員要件としての本適用は経過期間を設け、2024年度からとする。

(C6) 少額短期保険計理人の機能発揮に向けた取り組み

2023年5月に一定の役割を果たした「少額短期保険計理人関連検討PT（以下PT）」を廃止した上で、「少短計理人実務検討部会」を設置し、PTの成果物である「少額短期保険業者の保険計理人の実務ガイド」や少短計理人の役割の検討を継続的に進めていくこととした。

(C7) データサイエンスに関する取り組み

- ① データサイエンス関連基礎調査WGでは、データサイエンスの技術がアクチュアリーの実務にどう生かせるかという観点から、予測モデルや解釈可能な機械学習等について調査・研究を行っている。
- ② 調査・研究の成果をICA2023シドニー大会や統計関連学会連合大会で発表した。
- ③ これまでに行った調査・研究の状況をまとめアクチュアリージャーナルに投稿するとともに、年次大会においても発表し、活動内容や成果を会員に周知した。

(C8) 気候変動リスク・サステナビリティに関する取り組み

- ① 2023年3月に設置した気候変動リスク・サステナビリティ研究会において、7つの取り組みテーマを設定し、調査・研究を進めていくこととした。
- ② 年次大会において、それまでに行った調査・研究の状況を発表した。

(C9) 委員会等の活動

各委員会・部会・研究会・ワーキンググループ・プロジェクトチームにおいては、年度始めに定めた目的・ミッションに基づく調査・研究などの活動を行い、その活動状況等を一般向けホームページに掲載するとともに、調査・研究の成果としてまとめたものについては、会員専用ホームページ・会報別冊等を通じて公表した。

[D. 意見表明]

(D1) IAAのカウンシルでの投票（電子投票を含む）

- ① 2023年5月、IAAカウンシル・ミーティング（シドニー）において、Advice & Assistance Committee 委員長の指名承認、Future Actuaryに関する「需要と供給の構築にかかる趣意

書」の承認、水関連リスクTFに関する趣意書の承認、SDGs TFに関する趣意書の承認、2022年度の財務諸表の承認等について、賛成として投票を行った。

- ② 2023年7月、エグゼクティブ委員会の委員選任の承認について、賛成として投票を行った。
- ③ 2023年11月、IAAカウンスル・ミーティング（リスボン）において、委員会、フォーラム、セレクションの委員長等の任期満了に伴う指名の承認、2024年度予算の承認等について賛成として投票を行った。
- ④ 2024年2月、IAA事務局のカナダ法人化に伴う諸規程等の変更の承認について、賛成として投票を行った。
- ⑤ 2024年2月、AIに関する趣意書の承認、ICA2026東京大会のレギュレーションの承認、ベニンの準会員組織としての加盟の承認について、賛成として投票を行った。

[E. 国際関係]

(E1) IAA 活動

2023年度末現在の当会のIAA委員会の委員等は次のとおりであり、委員会活動に積極的に参画している。また、2022年度に引き続き、ICA2026東京大会を見据え、正会員のIAAへの参画機会を増やしていくことを目的に、IAAバーチャルフォーラムに2023年度を任期としてオブザーバーを選任した。

<委員会等への派遣メンバー>

Strategic Planning Committee	吉村 雅明 君（ミリマン）
Advance Committee	吉村 雅明 君（ミリマン）
Membership Committee	砂本 直樹 君（富国生命）
Professionalism Committee	田中 浩一 君（明治安田生命）
	吉村 雅明 君（ミリマン）※オブザーバー
Education Committee	藤澤 陽介 君（住友生命）
Advice & Assistance Committee	関根 賢二 君（マッシュ アンド マクナ）
Insurance Accounting Committee	中村 吉男 君（住友生命）
Insurance Regulation Committee	重原 正明 君（第一生命経済研究所）
Pensions Accounting Committee	関根 賢二 君（マッシュ アンド マクナ）
Pandemics Task Force	勝野 健太郎 君（住友生命）
Future Actuary Task Force	前林 義明 君（明治安田生命）
AI Task Force	岩崎 宏介 君（ミリマン）
	山田 龍太郎 君（MS&AD ホルディングス）
	藤澤 陽介 君（住友生命）
ISAP8 Task Force	関口 健太郎君（エーオングループジャパン）

<フォーラムへの派遣メンバー>

Pensions, Benefits and Social Security Forum	関根 賢二 君（マッシュ アンド マクナ）
	西井 祐一 君（第一生命）※オブザーバー
Social Security Subgroup	清水 信広 君（全国生協連）
	日下部 健児 君（みずほリサーチ&テクノロジーズ）※オブザーバー

Enterprise & Financial Risk Forum	藤澤 陽介 君 (住友生命) ※副委員長 長 信一郎 君 (明治安田生命) ※オブザーバー 広瀬 航 君 (富国生命) ※オブザーバー
General Insurance Forum	山田 龍太郎 君 (MS&AD ホルディングス) ※副委員長 塩島 薫 君 (あいおいニッセイ同和損保) ※オブザーバー
Data Analytics Virtual Forum	山田 龍太郎 君 (MS&AD ホルディングス) 谷川 正磨 君 (明治安田生命) ※オブザーバー 庄司 裕 君 (富国生命) ※オブザーバー
Inclusive Insurance Virtual Forum	関根 賢二 君 (マシュアット マクラン)
Mortality Virtual Forum	勝野 健太郎 君 (住友生命) 横井 裕明 君 (朝日生命) ※オブザーバー 長島 崇行 君 (太陽生命) ※オブザーバー

<セクションへの派遣メンバー>

AFIR/ERM	砂本 直樹 君 (富国生命) 横山 大河 君 (みずほ信託)
ASTIN	海老崎 美由紀 君 (監査法人トーマツ)
IAALS (LIFE)	反橋 拓朗 君 (ハノーバー再保険)
PBSS	清水 信広 君 (全国生協連)

(E2) 第48回 東アジア・アクチュアリー講座 (ASEA) の開催

2023年9月11日から15日までの5日間にわたり、東アジアを中心とする13の地域から29名の参加を得て、本会会員3名を加え、アクチュアリーが関わる日本の諸制度の状況等の講義とデスカッションを実施した。

(E3) 国際会議等への派遣等

対面とオンラインのハイブリッド形式で開催されている。

- ① 2023年5月24日～5月28日 IAA 会議 (於: オーストラリア・シドニー)
上田 泰史 君、吉村 雅明 君、清水 信広 君、重原 正明 君、中村 吉男 君、
田中 浩一 君、山田 龍太郎 君、藤澤 陽介 君、関根 賢二 君、富村 雄三 君
- ② 2023年5月28日～6月1日 ICA2023 (於: オーストラリア・シドニー)
上田 泰史 君、富村 雄三 君、庄子 浩 君、渡部 仁 君、津田 健 君、金子 洋巳 君、角
英幸 君、吉村 雅明 君、浜野 雅章 君 (バーチャル)、豊島 俊 君、川邊 真 君、黒田 暁
君、谷川 正磨 君、池田 洋 君 (バーチャル)、清水 信広 君、横山 大河 君、反橋 拓朗 君、
海老崎 美由紀 君、岩沢 宏和 君 (論文発表)、藤田 卓 君 (論文発表)、松江 康紘 君 (論
文発表)、指田 昌樹 君 (論文発表)
- ③ 2023年6月26日～6月30日 Extreme Value Analysis 2023 (於: イタリア・ミラノ)
西 一郎 君 (論文発表)
- ④ 2023年7月30日～8月2日 APRIA2023 (於: 日本・大阪)
西 一郎 君 (論文発表)
- ⑤ 2023年11月17日～11月20日 IAA 会議 (於: ポルトガル・リスボン)
上田 泰史 君、砂本 直樹 君、吉村 雅明 君、重原 正明 君 (バーチャル)、中村 吉男 君

(バーチャル)、富村 雄三 君

(E4) ICA2026 東京大会に向けた取り組み

- ① ICA2023 シドニー大会に先立ち、ICA2026 組織委員会により ICA 参加者の交流会を 2023 年 4 月に実施した。
- ② シドニー大会での東京大会のプロモーションやバトンパスイベントを実施するとともに、会議運営の視察を行った。また、本会会員の 11 編の論文が採用され、2 名が優秀論文を受賞した。
- ③ シドニー大会の視察等を踏まえ、東京大会の大会形式や会場を決定した。
- ④ 2023 年 11 月、オーストラリア・アクチュアリー会会長 Naomi Edwards 氏が来日し、シドニー大会の運営概要、大会運営を通じて得た教訓等の情報共有に加え、大会開催にあたっての留意点等について意見交換を行った。
- ⑤ 東京大会に向けて、論文発表を検討している会員を支援し、本会における学術活動をさらに推進するため、シドニー大会の論文発表を題材としたセミナーを 2024 年 1 月に開催した。

(E5) 海外アクチュアリー会とのミーティング

- ① 米国アクチュアリー会 (SOA) の会長 John Robinson 氏等と、IAA シドニー会議の期間中、データサイエンスへの対応、試験制度に関する大学との連携、事業計画の策定・推進等をテーマに意見交換を行った。
- ② 英国アクチュアリー会 (IFoA) の CEO Stephan Mann 氏と、IAA シドニー会議の期間中、英国における保険数理機能等の資格要件、気候変動リスクに関する取組みをテーマに情報交換を行った。

(E6) Convention A 運営への参画

2024 年 3 月 19 日～20 日にかけて行われた、Convention A (European Actuarial Academy (EAA) と actuview が共同でオンラインにて開催したオープンコンベンション) の運営に参画し、「今、アクチュアリーは何をすべきか～データサイエンスを中心に」をテーマとし、データサイエンス関連基礎調査 WG における成果等を発表した。

[F. 評議員会]

- (F1) 2024 年 2 月 28 日に第 35 回評議員会を開催し、2023 年度事業報告、2024 年度事業計画(案)、および主なテーマ (ICA2026 に向けた取り組み、中長期的な事業戦略の見直し、アクチュアリー認知度向上に向けた広報戦略等) について審議した。

[G. 学術活動]

- (G1) 京都大学より保険数理及び年金数理の講師派遣の依頼があり、浅野 淳 君 (住友生命)、齊藤 弘行 君 (住友生命)、中村 吉男 君 (住友生命)、喜多 俊也 君 (りそな銀行)、辻 芳彦 君 (大同生命)、豊留 健 君 (日本生命)、山内 宗幸 君 (日本生命) 及び柳戸 祐二 君 (日本生命) を派遣した。
- (G2) 大阪大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、佐々田 明彦 君 (住友生命)、渡辺 有介 君 (大同生命) 及び柳戸 裕二 君 (日本生命) を派遣した。

- (G3) 神戸大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、中川 大輔 君（住友生命）を派遣した。
- (G4) 早稲田大学より生保数理、年金数理及び損害保険の理論と実務、プロフェッショナルリズムの講師派遣の依頼があり、安達 良喜 君（明治安田生命）、田中 浩一 君（明治安田生命）、浜田 淳一 君（明治安田生命）、荒井 昭 君（明治安田生命）、越後谷 斉一 君（明治安田生命）、関口 健太郎 君（エオングループジャパン）、藤澤 陽介 君（住友生命）、塩島 薫 君（あいおいニッセイ同和）、青木 拓郎 君（損害保険ジャパン）、堀田 周平 君（三井住友海上）、加藤 奈々 君（個人）、佐野 誠一郎 君（共栄火災海上）、藤田 卓 君（個人）、松森 至宏 君（損害保険ジャパン）を派遣した。
- (G5) 2023 年 5 月 13 日、早稲田大学大学院会計研究科において、アクチュアリーに興味のある学部生・大学院生を対象としたキャリア支援セミナーが開催され、学術活動の一環として、富村 雄三 君（事務局長）を派遣した。
- (G6) 2023 年 6 月 8 日、関西大学システム理工学部数学科において、学部 3 回生を対象にアクチュアリーについて紹介するキャリアガイダンスが開催されることとなり、学術活動の一環として、滑川 敬規 君（住友生命）を講師として派遣した。

[H. 表彰関係]

(H1) 2022 年度資格試験理事長賞及び成績優秀者

① 理事長賞

高橋 優 君（日本生命）、三神 惇志 君（日本生命）、中村 尚暉 君（三井住友海上）、吉田 匠志 君（トア再保険）に理事長賞を授与した。

② 科目別成績優秀者

数学 2 名、生保数理 1 名、損保数理 1 名、年金数理 1 名、会計・経済・投資理論 2 名の成績優秀者を表彰した。

(H2) 優秀論文の表彰

① 2023 年度アクチュアリー会優秀論文について、学術委員会による審査の結果、同委員会からの推薦はしないこととなり、当該論文は該当がなかった。

② 2024 年 2 月 9 日、IT 研究大会において、次の IT 関係優秀論文を表彰した。

「保険会社が選択すべき IT インフラの研究」

（ IT 研究会 第 2 グループ ）

「システム開発の海外委託の効率的活用とリスク管理」

（ IT 研究会 第 3 グループ ）

[I. 広報・出版活動]

(I1) 情報提供機能の充実

① 2023 年 9 月 1 日と 2024 年 2 月 3 日に、学生を主な対象としたアクチュアリーセミナーをオンライン形式で開催した。

② 2023 年 7 月～2024 年 1 月にかけて、各大学に訪問し、学部生・院生を対象としたアクチュアリーの紹介セミナーを開催した。詳細は以下の通り。

大学名	開催日	派遣会員
慶應義塾	7/4	富村 雄三 君(事務局長)、板倉 史明 君(明治安田生命)、森 朋也 君(損害保険ジャパン)、今中 亮介 君(三菱UFJ信託)
大阪	11/24	富村 雄三 君(事務局長)、中野 聡志 君(日本生命)、高木 寛道 君(りそな)
東京	11/28	富村 雄三 君(事務局長)、北原 悠 君(日本生命)、岩山 英之 君(東京海上HD)、佐伯 俊輔 君(三井住友信託)
東北	12/6	富村 雄三 君(事務局長)、新田 正吾 君(第一生命)、酒井 良洋 君(損害保険ジャパン)、遠田 健 君(三菱UFJ信託)
東京理科	12/6	板倉 史明 君(副事務局長)、木村 健一 君(富国生命)、須藤 孝浩 君(あいおいニッセイ同和)、黒岩 遼平 君(りそな)
東京工業	12/18	富村 雄三 君(事務局長)、山川 達弘 君(住友生命)、住田 翔星 君(三井住友海上)、中田 英祐 君(みずほ信託)
名古屋	12/19	富村 雄三 君(事務局長)、中原 慎介 君(明治安田生命)、小島 健一郎 君(あいおいニッセイ同和)、附田 舞 君(第一フロンティア)
一橋	12/21	富村 雄三 君(事務局長)、村手 悠帆 君(第一生命)、緒方 聖一 君(東京海上HD)、矢作 麻希子 君(住友生命)
お茶の水女子	1/24	富村 雄三 君(事務局長)、大野 紀子 君(日本生命)、中島 光子 君(EY新日本)

- ③ 2023年9月に、一般向けホームページの「合格者の声」について、2023年度版としてリニューアル(紹介メンバーの入替え)を行った。
- ④ 2024年1月に、一般向けホームページの「アクチュアリーという仕事の魅力」のリニューアル(紹介メンバーの入替え)を行った。

(12) 関連協会の事業への協力活動

- ① 公益財団法人 数学オリンピック財団が主催する公益目的事業「国際数学オリンピック(IMO)2023日本大会」等への協賛を実施し、本会から理事長(上田 泰史 君)が開会式に参加した。
- ② 公益財団法人 日本数学検定協会が主催する公益目的事業「数学甲子園2023」の本選に協賛する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

(13) 会報等の刊行

① 会報

第 76 号	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貯蓄性保険商品における解約率の予測について ・ 近代日本社会成立におけるアクチュアリーの果たした役割について— 百年史の余話として— ・ 生命保険リスク計測における同質なリスクグループについて ・ 保険会社における経済価値ベースのリスク量の計測：分位点回帰を用いた手法 ・ 近似による確率論的オプション評価式の導出 —変額保険— ・ 新たな死亡率回帰モデルの提案—時間経過に伴う死亡率の変動の構造を確率分布で表現する新たな死亡率回帰モデルの提案とその妥当性の検証— ・ リアル・オプション法による損保事業価値評価について(会報第75号に掲載した論文を修正して再掲載するもの)
--------	---

② 会報別冊

<p>第 296 号</p>	<p>保険会社およびその他金融機関への気候に関するシナリオの適用 IAA ペーパー (翻訳) エグゼクティブ・サマリー はじめに 1. 財務的効果を報告するための情報源と考慮事項 2. 保険数理的な検討 3. 相互作用とシステムの問題 4. シナリオの更新と ERM フレームワークとの統合 5. ケーススタディ 6. 次のステップ References</p>
<p>第 297 号</p>	<p><第 63 回 IT 研究大会報告> ・特別講演 「web3 がもたらす保険／共済の可能性」(アビームコンサルティング株式会社 金融ビジネスユニット 執行役員 プリンシパル 植田 良平氏) ・ニューノーマル下での IT 活用・人材育成 (調査・研究グループ 1) ・量子コンピューターが保険業界にもたらす影響 (調査・研究グループ 2) ・エンベデッド・インシュアランスから見る保険サービスのイノベーション (調査・研究グループ 3) ・Web3.0 時代における共通基盤の実現性について (調査・研究グループ 4) ・保険業界における真の崖～みんなを救う翼 (マイグレーション) (調査・研究グループ 5)</p>
<p>第 298 号</p>	<p><第 9 回アクチュアリー海外研修報告> ・第 1 編 生保・年金組報告 ・第 2 編 損保組報告 ・Appendix A SOA プレゼン資料 ・Appendix B CAS プレゼン資料 ・Appendix C 研修後アンケート</p>

③ アクチュアリージャーナル

<p>第 123 号</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・例会報告 2022 年度 第 4 回例会「がん既往者のリスク評価における課題と解決策—最新の医療進歩と技術評価に関する考察」 ・例会報告 2022 年度 第 5 回例会「金融リテラシー教育の現状と今後目指すべき方向性」 ・翻訳 IAA の国際アクチュアリー実務基準 ISAP4 (IFRS17 保険契約) について ・報告 SOA の Exam PA : Predictive Analytics の翻訳 ・翻訳 ASTIN Bulletin Abstracts ・報告 2022 年度 AFIR 関連研究会活動報告 : 2021 年 Virtual Colloquium の論文輪読 ・報告 2022 年度 関西委員会分科会活動報告 ・報告 2022 年度 ムーンライトセミナー
----------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・2022 年度 新 CERA 資格者決定 ・2022 年度 継続教育制度履修目標達成者 ・書評 ジャパン・リスク 差し迫る脅威、日本の生き残りをかけた戦略は？ ・2022 年度 資格試験合格者発表 ・連載 アクチュアリーリレートーク（第 24 回）
第 124 号	<ul style="list-style-type: none"> ・例会報告 2022 年度第 7 回例会「パンデミックにおける統計学」 ・論文 予測モデリングとアクチュアリー実務：汎用的な誤差分解・推定手法の必要性と可能性 データサイエンス関連基礎調査 WG ・報告 国際学会参加報告 ERM 委員会 ・報告 2022 年度継続教育の履修状況について ・2023 年度 委員会・部会・研究会・ワーキンググループ・プロジェクトチーム名簿 ・連載 アクチュアリーリレートーク（第 25 回）
第 125 号 ＜ICA2023 シドニー大会特集号＞	<ul style="list-style-type: none"> ・特集 ICA2023 シドニー大会 ICA2026 組織委員会 ・報告 第 48 回 ASEA 開催 ASEA 部会 ・報告 国際数学オリンピック日本大会について 広報委員会 ・寄稿 アクチュアリー会 会報 続々・歴史の散歩道 ・コラム 職業人インタビュー ・連載 アクチュアリーリレートーク（第 26 回）
第 126 号	<ul style="list-style-type: none"> ・例会報告 2023 年度プロフェッショナルリズム研修（継続教育）／第 7 回例会第一部「Profession としての Engineering と倫理教育の動向」 第二部「アクチュアリーとしてのプロフェッショナルリズム」 ・報告 生成 AI の海外アクチュアリー会における検討状況 ・書評 生命保険の数理 古典論から経済価値評価まで 花津谷 徹（著） ・連載 アクチュアリーリレートーク（第 27 回）
特別号 ＜リスクと保険第 20 号＞	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「気候変動リスクへのアプローチ」 ・論文「交互作用効果の計量化および可視化に関する考察」 ・論文「交通量変動を考慮した新型コロナウイルス感染症の流行期における都道府県別自動車事故頻度の分析」

④ 2023 年度資格試験問題集

⑤ 2023 年度年次大会報告集

(14) 広報誌の改訂

2023 年 7 月、個人会員数の業態別内訳・年次別推移および法人会員一覧の更新等の改訂を行った。

[J. その他]

(J1) 中長期的な事業戦略の見直し

中長期的な事業戦略のさらなる活用に向けて、外部環境の変化を踏まえ、今日的な見直しを行うとともに、中長期的な視点で会・委員会等の活動が推進されるように、より具体化した取組内容を設定した。また、単年度計画の策定時に中長期的な事業戦略との連関性を高めるとともに、適時振り返りや課題認識を行うことで PDCA 運営を高度化した。